

縄文時代の社会変化-複雑化する縄文社会-

秦野市文化スポーツ部生涯学習課
文化財・市史担当 横山諒人

1 縄文時代中期から後期の気候変化

(1) 4.3、4.2Ka イベント

約4300、4200年前に寒冷化

二酸化炭素濃度は少しずつ状況

→夏季モンスーンの変調が原因か

温暖湿潤な大気が日本列島に届かなくなる

梅雨の降水量の減少

(2) 寒冷化後の安定化

工藤雄一郎による環境区分(工藤2012)

Cold1:約5900~4400cal BP

Cold2:約4400~2800calBP

Cold2a:称名寺式~堀之内1式頃まで「寒冷期」(約4400~4000calBP)

Cold2b:堀之内2式~安行3d式頃まで「安定期」(約4000~2800calBP)

Cold3:約2800~calBP

2 縄文時代中期後半から後期前半の住居変遷

(1) 竪穴式住居の変遷

ア 加曾利EⅠ式期

(ア) 平面形態 縦長楕円

(イ) 柱穴 4~6本支柱穴

(ウ) 埋甕 なし

イ 加曾利EⅡ式期

(ア) 平面形態 縦長楕円、円形、方形

(イ) 柱穴 4~6本支柱穴

(ウ) 埋甕 出現

ウ 加曾利EⅢ式期

(ア) 平面形態 縦長楕円、楕円形、長方形

(イ) 柱穴 4~6本支柱穴

(ウ) 埋甕 急増

(エ) その他 小張出 出現

エ 加曾利 EIV式期

- (ア) 平面形態 柄鏡形
- (イ) 柱穴 壁柱穴
- (ウ) 埋甕 張出部に埋設

(2) 柄鏡形(敷石)住居の変遷

ア 初源期(加曾利 EIII式期)

- (ア) 石柱・石壇をもつ住居
- (イ) 小張出・埋甕をもつ住居

イ 成立期(加曾利 EIII新・IV式～称名寺式期)

- (ア) 全面敷石・一部敷石・無敷石
- (イ) 張出部に埋甕
- (ウ) 炉が入口近くへ

ウ 発展期(堀之内式期)

- (ア) 張出部 「凸」字状、「ハ」字状 埋甕消失
- (イ) 主体部 円形、方形
- (ウ) 周堤礫出現

エ 終末期(加曾利 B式期)

- (ア) 張出部 「凸」字状、「ハ」字状
- (イ) 環礫方形配石遺構 出現

3 縄文時代中期後半の集落

(1) 事例

- ア 山王平遺跡(相模原市中央区淵野辺本町)
- イ 月出松遺跡・月出松南遺跡(横浜市都筑区加賀原)
- ウ 大熊仲町遺跡(横浜市都筑区仲町台3丁目)
- エ 川尻中村遺跡(相模原市緑区向原)
- オ 東開戸遺跡(秦野市下大槻)
- カ 稲荷木遺跡(秦野市戸川)

(2) まとめ

- ア 加曾利 EII、EIII式期をピークに住居数が減少
- イ 加曾利 EIV式期には環状構造を維持できない
- ウ 川尻中村遺跡では大規模な環状列石を確認
- エ 住居数が減少していく中で、柄鏡形(敷石)住居が出現

4 縄文時代後期の集落

(1) 事例

- ア 原口遺跡(平塚市上吉沢)
- イ 山田大塚遺跡(横浜市港北区東山田町)

- ウ 小丸遺跡(横浜市都筑区大丸)
- エ 華蔵台遺跡(横浜市都筑区荏田南5丁目)
- オ はじめ沢下遺跡(相模原市緑区城山)
- カ 下北原遺跡(伊勢原市日向)
- キ 三ノ宮・下谷戸遺跡(伊勢原市三ノ宮)
- ク 曾屋吹上遺跡(秦野市曾屋)
- ケ 稻荷木遺跡(秦野市戸川)
- コ 菩提横手遺跡(秦野市菩提)
- (2) まとめ
- ア 神奈川県東部
 - (ア) 台地平坦部に展開する住居 台地縁辺に展開する住居
 - (イ) 多重服による住居群の形成
 - (ウ) 多重服による住居群の入口に隣接し墓坑が伴う
- イ 神奈川県西部
 - (ア) 斜面地に形成された場合、等高線に沿って住居が並ぶ
 - (イ) 住居入口付近に配石遺構を敷設
 - (ウ) 配石遺構の下部に墓坑

5 複雑化する縄文社会

- (1) 社会とは・・・「人間が集まって共同生活を営む際に、人々の関係の総体が一つの輪郭をもって現れる場合の、その集団。諸集団の総和から成る包括的複合体をもいう。自然的に発生したものと、利害・目的などに基づいて人為的に作られたものがある。家族・村落・ギルド・協会・会社・政党・階級・国家などが主要な形態。」(『広辞苑』第5版)
- (2) 社会モデル
 - ア フリード 平等社会 階層化社会 階級社会 国家
 - イ サービス バンド社会 部族社会 首長制社会 国家
- (3) 縄文時代中期後半の社会
 - 環状集落にみられる分節構造
- (4) 縄文後期の社会
 - ア 縄文時代後晩期停滞説
 - イ 「核家屋」(石井 1994 他)
 - (ア) 集落の「要」の位置に立地
 - (イ) 繰り返し同じ場所で建て替えを繰り返す
 - (ウ) 住居全面に墓域が形成されている
 - (エ) 堀之内2式期に明確になり、晩期まで続く
 - ウ 「核家屋」と「墓域」の関係

- エ 柄鏡形敷石住居と廃屋儀礼
- (5) 縄文式階層化社会(渡辺 1990)
 - ア 北太平洋沿岸狩猟採集民の民族誌検討→階層化狩猟採集社会モデル構築
 - イ 縄文時代の高度高原品や大形環状構築物にみられる儀礼の高度化
→「縄文社会＝階層化社会」
- (6) トランスイ(エ)ガリタリアン社会
 - ア 暴君社会
 - イ 返礼社会
 - ウ 企業社会

6 まとめ

7 参考文献

- 秋田かな子 1991 「柄鏡形住居研究の視点」『東海大学校地内遺跡調査団報告』2 東海大学校地内遺跡調査委員会
- 阿部友寿 2014 「住居址に伴う配石と墓坑」『神奈川考古』第50号 神奈川考古同人会
- 2015 「関東南部における住居と墓の関係(1)」『神奈川考古』第51号 神奈川考古同人会
- 2016 「関東南部における住居と墓の関係(2)」『神奈川考古』第52号 神奈川考古同人会
- 2017 「関東南部における住居と墓の関係(3) -住居と墓の対比-」『神奈川考古』第53号 神奈川考古同人会
- 2018 「関東南部における住居と墓の関係(4) -記憶と系譜-」『神奈川考古』第54号 神奈川考古同人会
- 天野賢一ほか 2002 『川尻中村遺跡』かながわ考古学財団調査報告 133 財団法人かながわ考古学財団
- 天野賢一 2000 『原東遺跡・川尻中村遺跡図録』財団法人かながわ考古学財団
- 安藤文一ほか 1995 『東開戸遺跡』東開戸遺跡発掘調査団
- 石井 寛 1994 「縄文後期集落の構成に関する一試論-関東地方西部を中心に-」『縄文時代』5 縄文時代文化研究会
- 石井 寛 1999 『小丸遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財報告書 25 財団法人横浜市ふるさと財団埋蔵文化財センター
- 石井 寛 2001 「関東地方における集落変遷の画期と研究の現状」『縄文時代集落研究の現段階』縄文時代文化研究会
- 石井 寛 2008 『華蔵台遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財報告書 41 財団法人横浜市ふるさと財団埋蔵文化財センター
- 石井 寛ほか 1990 『山田大塚遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財報告書Ⅺ横浜市埋蔵文化財センター
- 石井 寛ほか 2008 『縄文文化円熟 華蔵台遺跡と後・晩期社会』横浜市歴史博物館
- 井辺一徳ほか 2009 『はじめ沢下遺跡』かながわ考古学財団調査報告 236 財団法人かながわ考古学財団
- 岡本 勇ほか 1965 「縄文文化の発展と地域性 関東」『日本の考古学』Ⅱ河出書房
- 川島尚宗 2015 『生産と饗宴からみた縄文時代の社会的複雑化』六一書房

- 川幡穂高 2022『気候変動と「日本人」20万年史』岩波書店
- 工藤雄一郎 2012『旧石器・縄文時代の環境文化史』新泉社
- 佐野貴司ほか 2022『日本の気候変動 5000万年史』講談社
- 宍戸慎悟ほか 2000『三ノ宮・下谷戸遺跡 (No. 14) II』かながわ考古学財団調査報告 78 財団法人かながわ考古学財団
- 縄文時代研究プロジェクトチーム 2003「神奈川における縄文時代文化の変遷VI-中期後葉期 加曾利 E 式土器文化期の様相その 3 文化的様相(1)-」『かながわの考古学』研究紀要 8 財団法人かながわ考古学財団
- 縄文時代研究プロジェクトチーム 2009「神奈川における縄文時代文化の変遷VII-後期初頭期称名寺式土器文化期の様相 その 4 文化的様相(2)-」『かながわの考古学』研究紀要 14 財団法人かながわ考古学財団
- 鈴木保彦ほか 1977『下北原遺跡』神奈川県埋蔵文化財調査報告 14 神奈川県文化財協会
- 坂上克弘 2005『月出松遺跡・月出松南遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財報告書 37 財団法人横浜市ふるさと財団埋蔵文化財センター
- 坂上克弘ほか 2000『大熊仲町遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財報告書 26 財団法人横浜市ふるさと財団埋蔵文化財センター
- 公益財団法人かながわ考古学財団 2018『考古学財団発掘帖』No. 30 公益財団法人かながわ考古学財団
- 公益財団法人かながわ考古学財団 2019『令和元年度発掘調査成果発表会』公益財団法人かながわ考古学財団
- 公益財団法人かながわ考古学財団 2020『令和 2 年度発掘調査成果発表会』公益財団法人かながわ考古学財団
- 長岡文紀ほか 1996『平成 7 年かながわの遺跡展謎の敷石住居』神奈川県立埋蔵文化財センター
- 長岡文紀編 1997『パネルディスカッション敷石住居の謎に迫る記録集』かながわ考古資料刊行会
- 長岡文紀ほか 2002『原口遺跡Ⅲ』かながわ考古学財団調査報告 134 財団法人かながわ考古学財団
- 谷口康浩 2005『環状集落と縄文社会構造』学生社
- 谷口康浩 2020『入門縄文時代の考古学』同成社
- 大工原豊 2006『ストーンサークル出現』安中市ふるさと学習館
- 坪井清足 1962「縄文文化論」『日本歴史』岩波書店
- 戸田哲也ほか 1998『山王平遺跡発掘調査報告書』山王平遺跡発掘調査団
- 新村出編 1998『広辞苑』第 5 版 岩波書店
- 福永将大 2020『東と西の縄文社会-縄文後期社会構造の研究-』雄山閣
- 明治大学日本先史文化研究所 2014『縄文文化の繁栄と停滞～「縄文時代後晩期停滞説」の矛盾と展開』明治大学日本先史文化研究所
- 山本暉久 2002『敷石住居址の研究』六一書房
- 山本暉久 2010『柄鏡形(敷石)住居と縄文社会』六一書房
- 山本暉久 2019『住居の廃絶と儀礼行為』六一書房
- 横山諒人 2018「秦野盆地における柄鏡形敷石住居と集落」『謎の敷石住居の現在』神奈川県考古学会
- 渡辺 仁 2000『縄文式階層化社会』六一書房(原書 1990 六興出版)

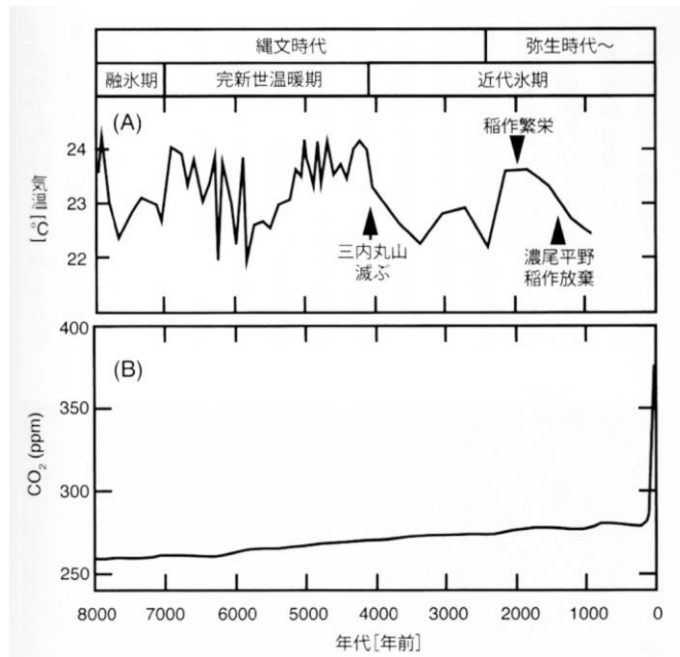


図 1. 過去 8000 年間の気温(A)と大気中の二酸化炭素濃度(B) (佐野ほか 2022)

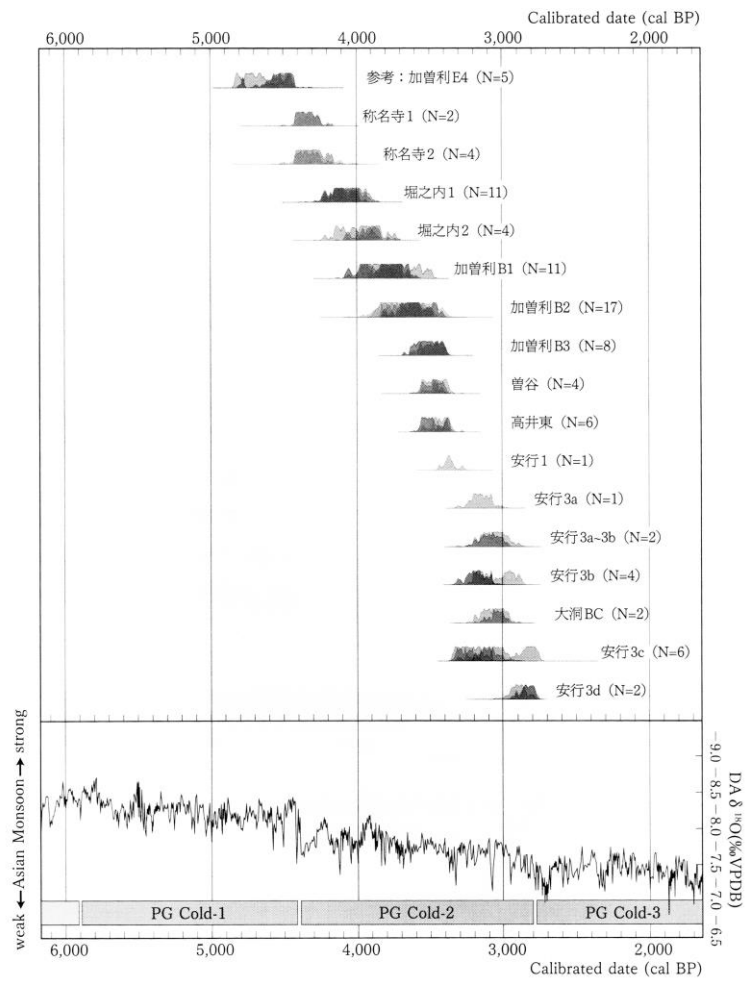


図 2. 後氷期における関東平野の各土器型式の校正年代(後・晩期) (工藤 2012)

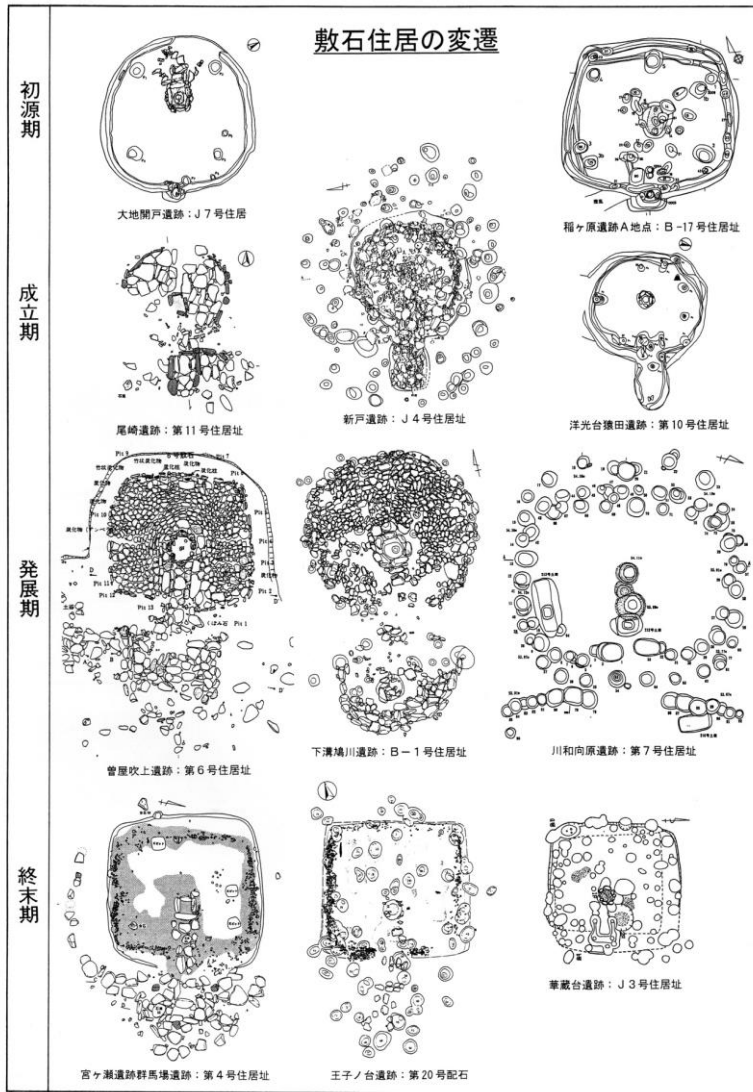


図4. 敷石住居の変遷(長岡ほか 1996)

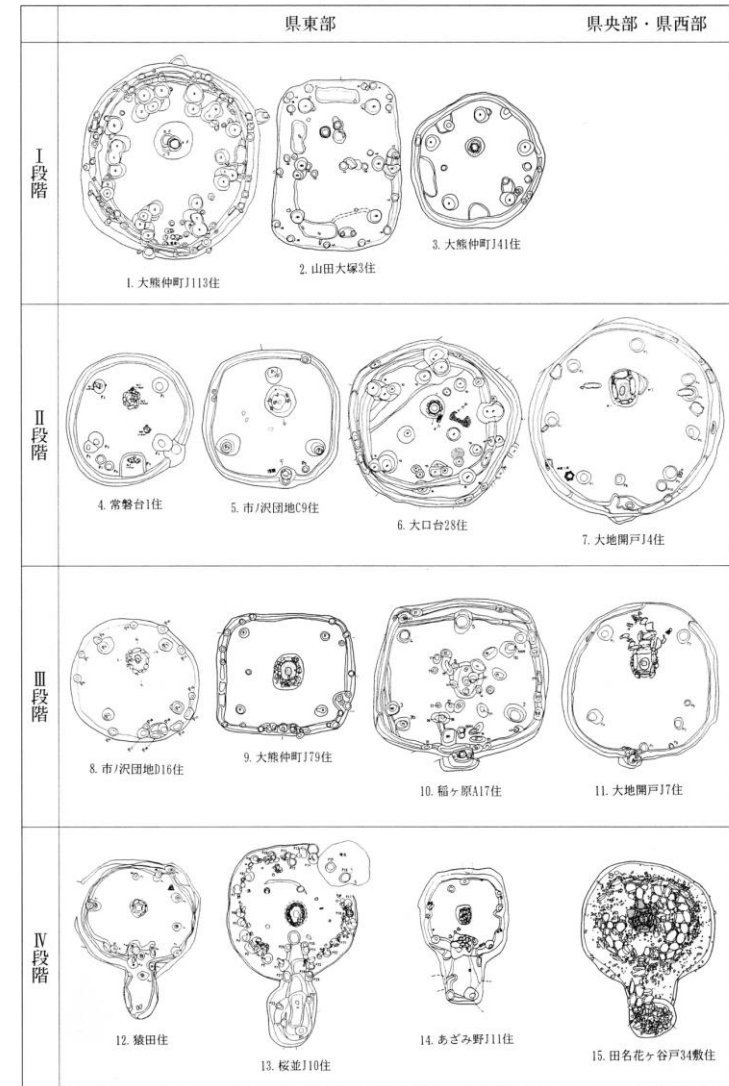


図3. 加曾利 E 式期住居址集成図(縄文時代研究プロジェクトチーム 2003)



图 5. 山王平遺跡(戸田哲也ほか 1998)

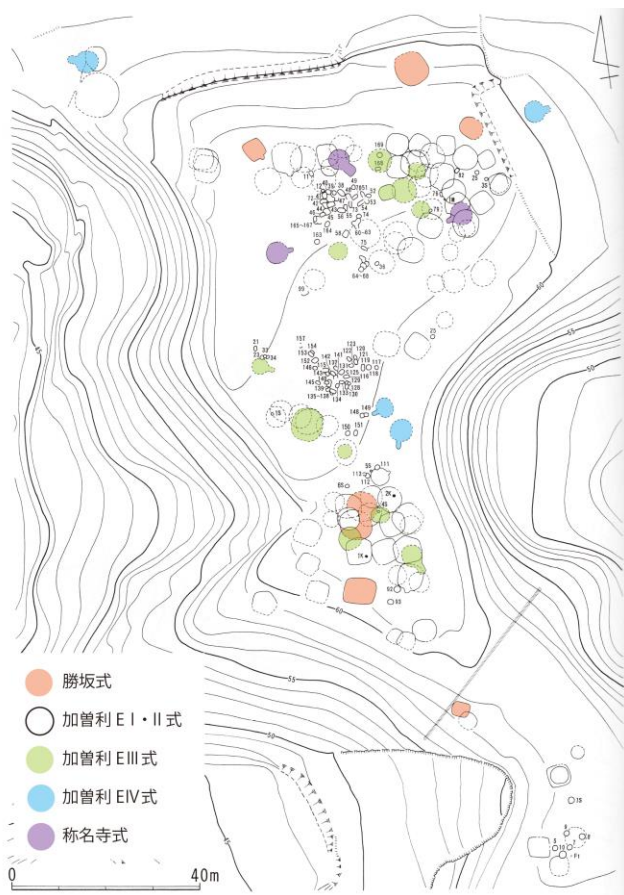


图 6. 月出松遺跡・月出松南遺跡(坂上 2005)

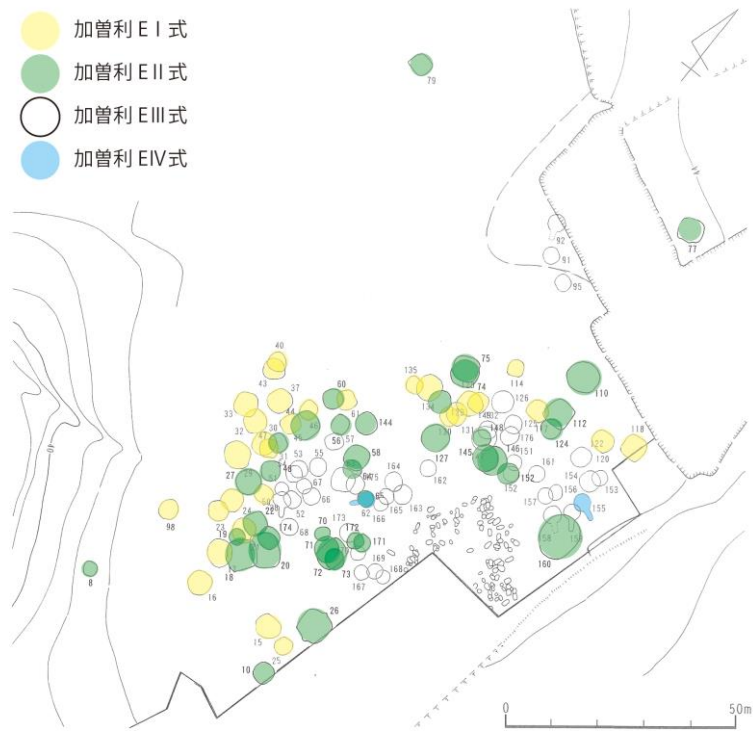


図 7. 大熊仲町遺跡(坂上ほか、2000)

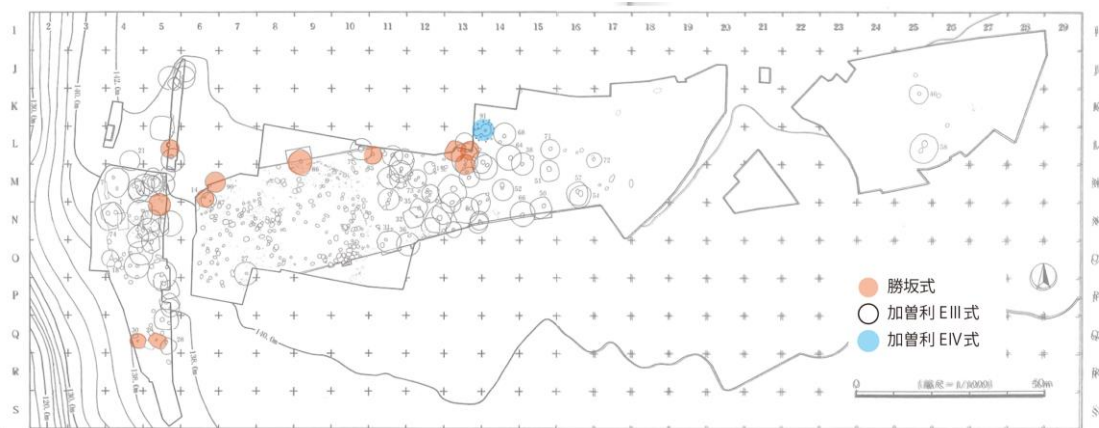


図 8. 川尻中村遺跡(天野ほか、2002)

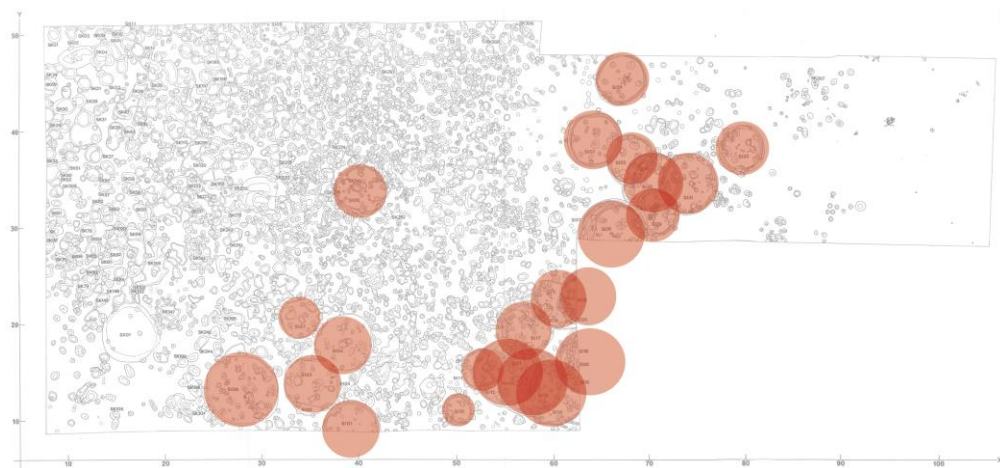


図 9. 東開戸遺跡(安藤ほか、1995)

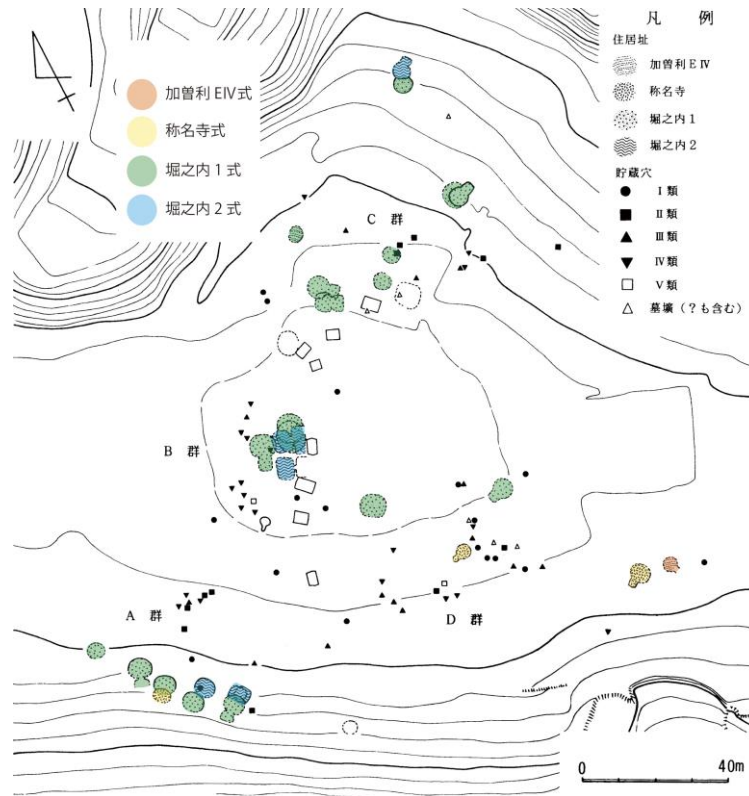


図 10. 山田大塚遺跡(石井ほか 1990)

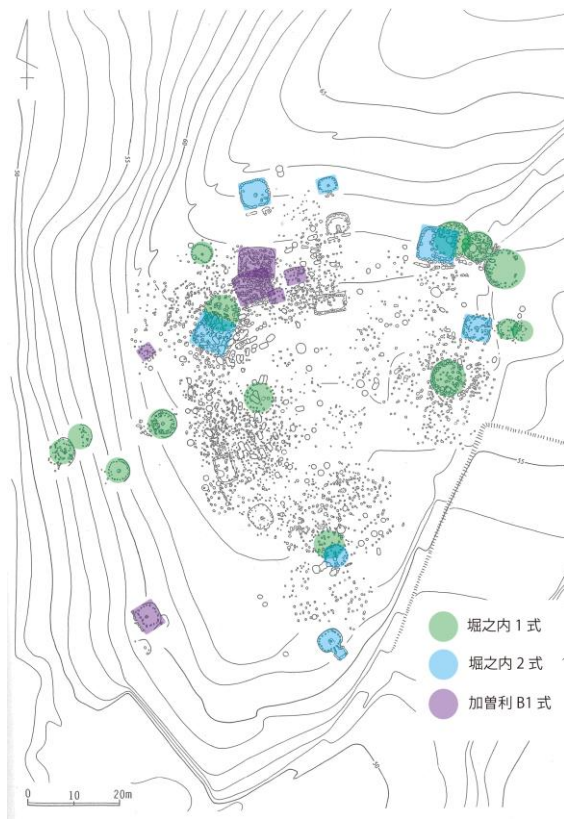


図 11. 小丸遺跡(石井 1999)

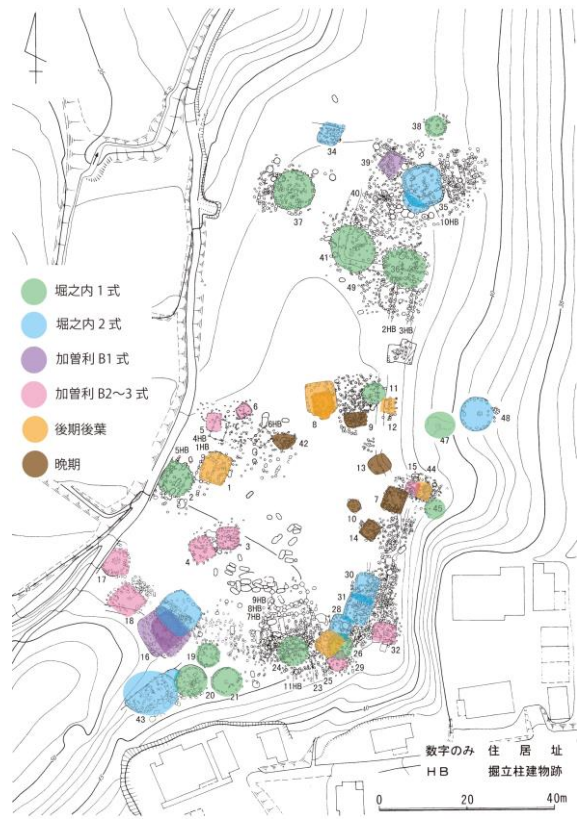


図 12. 華蔵台遺跡(石井 2008)

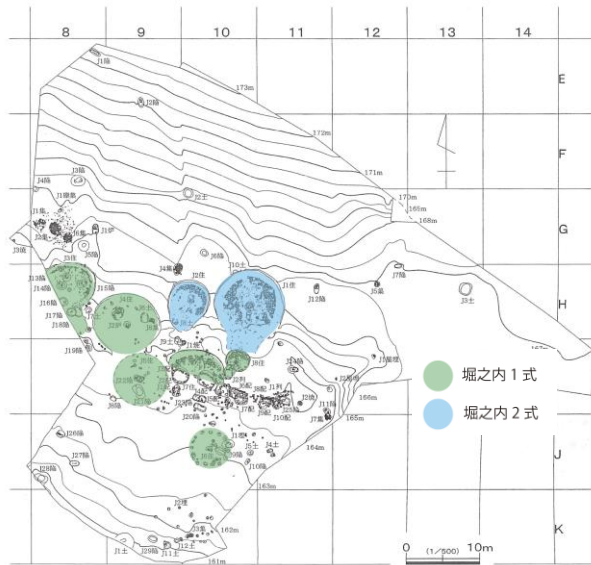


図 13. はじめ沢下遺跡(井辺ほか 2009)

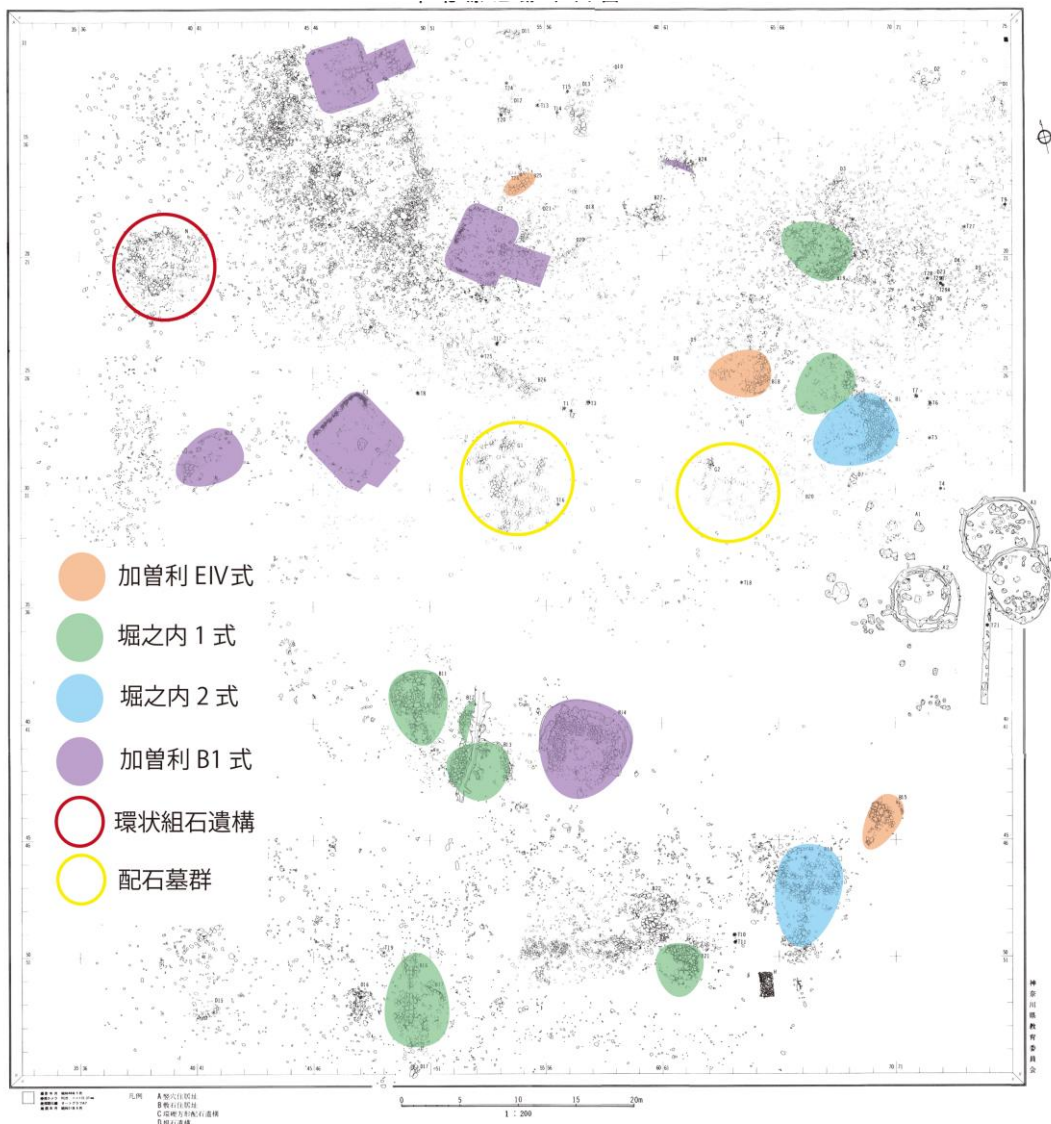


図 14. 下北原遺跡(鈴木 1977)

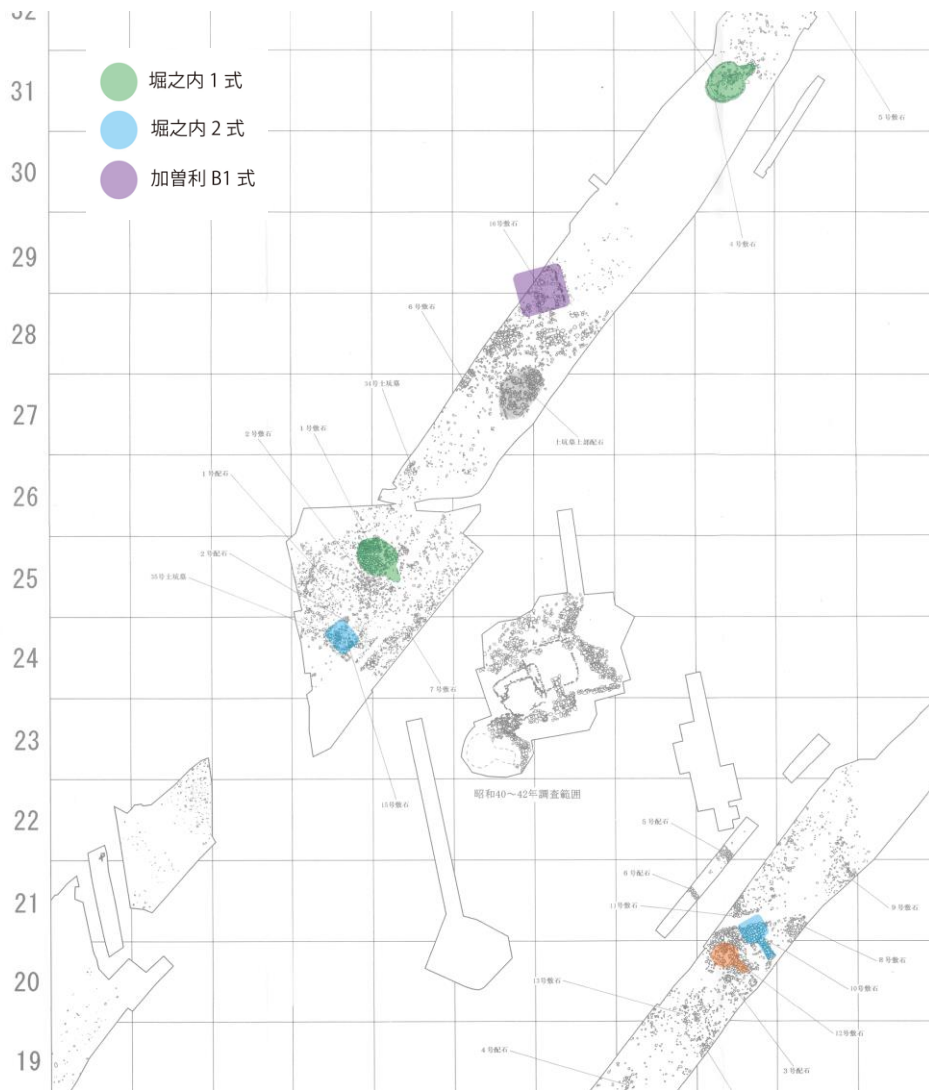


図 15. 三ノ宮・下谷戸遺跡(宍戸ほか 2000)

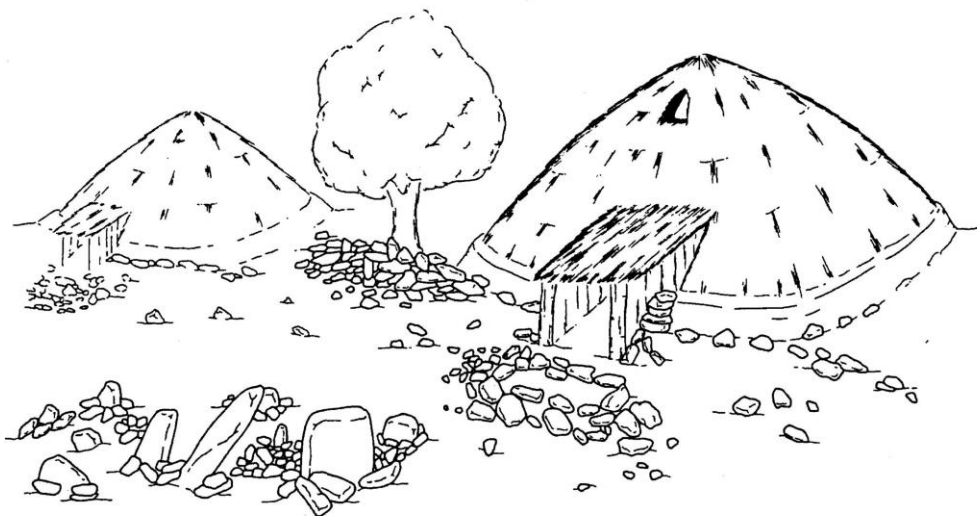


図 16. 号敷石住居址とその周辺の復元想定図(宍戸ほか 2000)